
はいアウト

夕焼け

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
はいアウト

【Nコード】
N6411M

【作者名】
夕焼け

【あらすじ】
いつまで逃げてるつもりだ？

やいのやいのとのたまうのは、いつだって「当事者」ではなくて、外野だ。

現場に立って、血と汗を流して、決死の覚悟で戦い続けてる人たちではなく、それを呆けた顔で口あけて眺めてるだけの観衆が、あーだのこうだのと、知たり顔で勝手な批評を並べる。

そういうのを、僕はこの上なく傲慢で横暴で低俗な行為だと思う。

血も流してないくせに、土俵が上がって殴られた事もないくせに、引き金を引くのはいつだって自分じゃ無いくせに、銃を上手く扱うために血のにじむような鍛錬を重ねてもいないくせに、口先三寸で言いたい放題を言う。

こんな奴は正真正銘ロクデナシだ。

そしてこれはまさに、俺のことだ。

本当に情けない話だけど、俺の能力分布グラフは「当事者として戦う事」じゃなくて、第三者として傍観して、やいのやいのを並べる事のほうに著しく拓けてる。

人様の人生にあれやこれや、手前勝手に傲慢な口出しをして、時には煙たがられたり、時には感謝されたりする。

とにかく俺が口を開けば誰かが笑って誰かが泣く。

笑うのも泣くのも、実際に自分で武器を取って、自分の戦いをしてる当事者達だ。

人には偉そうなことをああたこうだと言うのに、自分はいつもびびって、言い訳こいて、逃げてばかり。

他者がバットを握ってる際には、うざいくらいに外野から「それじゃ駄目だ。もっとこうしたほうがいい、分かるだろ？」なんてのたまう。

いざ自分がバッターボックスに立たされたら、ただやってくるボールに怯えて目を硬く閉じるばかりで、かつ飛ばすどころか、バットを振りもしない。

情けなさ過ぎて、心底自分自身にうんざりする。

新宿の夜は、いいものも、わるいものも、あるいはどっちでもないものも、とにかく何もかもを白日の下に暴こうとする。

良い部分も悪い部分もそうでない部分も、みんな、別に新宿じゃなくたって、どこにいる人だってみんな等しく併せ持つてる。

ただ、新宿はそれを露骨に暴きすぎるというだけのことだ。

その街角に立つと、自分の矮小さが浮き彫りになる。

これほどまでに小さく、情けない生き物だったのか、と痛感する。

醜くても、卑しくても、皆、幸せになるために、必死であがいて、手を伸ばしてる。

正しいとか間違ってるとか、そんな事はこの際どうでも良い。

当事者達はみんな必死なんだ。

俺だけが必死じゃない。

俺だけが都合の良い言い訳にぶら下がって、逃げて、逃げた自分にまた言い訳をしてその繰り返し。

自分では多少マシになったつもりで、その実大事な部分は何も変わ

ってない。むしろ悪くなってる。

昔なら、せめて当たって砕けるだけの事はした。

正しく衝突して砕けた上で、その痛みを苦悩してた。

今は違う。

身を守ることばかりに躍起になって、それ以上に踏み込む事をしない。

本当に情けない。

もしも好意を伝えて、もしも相手がそれに応えてくれた時、自分はそれに報いる事が出来ない？

どんだけ甘ったれた。

今までした試みの全てが失敗したからって、そんな事を言い訳にするのはよせ。

それでも真新しい試みをするんだよ。

今まで失敗した「それ」と、目の前にある「それ」は全くの別物だ。

試みをするべきなんだ。

そんな下手糞な試みをして、相手や迷惑をかけて、周りの反感を買っただけ？

言い訳ばかり並べて、自分を塞き止めて、鬱屈してこんななるよりは、そっちのほうかなんぼか正解だ。

変わりたいとどれだけ願ったことが。

その度にうまくいかなくて、立ち行かなくなつて、都合の良い逃げ場所を探して、見つけて、そうこうしてるうちに、ほらまた1年が過ぎた。

あっという間にアラサーだ。

もうあと1年ちよつとで30。

40だつてきつとあつという間だ。

いつまでこんな風に逃げてるつもりだ？

それでもこんな俺を慕ってくれる人がいる？

だからこの生き方も間違いじゃない？

望んだものとは違っても、守るに値する日常だ？

くっだらない。

笑っちゃうよなあ。

そんな事、腹の底からはこれっぽっちも思っ
てないくせに。

ホントは、手を汚してでも手にしたいと思っ
てるくせに。

ただ単純に傷つくのが怖いだけなんだ。

ほんとただそれだけ。

なんて簡単な性格。

ミミズのウンコみたいに貧相な根性。

16歳の頃に自分で作って歌った歌の歌詞に出てくる「こうはな
りたくない大人像」に最も近いのが今の自分自身だ。

本当に情けない。

それでもね、やっぱりまだどうしても諦めがつかないし、きっと無
様な姿晒して見当違いの頑張りを見せちゃうこともあるかもしれな
い。

どうか応援とか慰めの類は遠慮願いたい。

批判やヒンシュクの方が、なんぼか心地いい。

そっちの方が自分に適していると、心からそう思えるからだ。

次の機会は自分の手で生み出す。

その機会が訪れたら、今度こそもう一步を踏み込む。

上手くいくなんてこれっぽっちも思っ
ちゃいないけど、でもね、今
この瞬間だけはそうしたい衝動に駆られてるんだよ。

明日には萎えて、めげて、意気消沈してるのがオチなんだけどもね。

いつか「当事者として」何かを語れるようになりたいと思う。

小利口なばかりで怠惰な傍観者としてじゃなく。

現実に至って残酷だ。

その残酷さに対して我々に与えられた選択肢は「従うか」「抗うか」だけの二択じゃない。

実は3択だ。

「ただひたすら逃避する」という選択肢がある。

俺はいつだってそれを選んできた。

もう十分休息は取った。

そろそろ抵抗の姿勢を見せてみる。

もう分かってるんだろう？

俺がどれだけ正しいことを叫んでも、俺の声が正しく響かないのは、その声を発する俺っていう人間が、逃げっぱなしの半端者だからだ。

この現実に関自分で納得出来るならそれでいい。

でも納得出来なくて、こうして鬱憤を撒き散らしてるんだから、もういい加減別の選択肢を選ぶべきなんだ。

抗うこと、それを選択するべきなんだ。

残酷さに対して、従う選択をするのは指の一本すら動かなくなった時でいい。

だから今は抗うことをするべきなんだ。

どうするべきなのか、誰から諭されなくなつて、俺自身もうよく分かってるじゃないか。

後はそれを行動で示すだけだ。

出遅れたって手遅れだっていいんだよ。

諦める事に心底納得がいつてないんだから。
やっちまう他ないんだよ。

熱血臭いの、カッコいいとか思っちゃってる自分ダサいって？
もっとクールにやれよって？

そんなん言って逃げて、実際立ち向かうべき場面で立ち向かうことをしない俺自身が他の誰より最低最悪にダサいっての。
自分で自分を愛せてやれてないんだから。
それ以下なんてないだろ。

最低最悪にダサいのは、他の誰でもない俺だ。

やっちまおう、今度こそはやっちまおう。

今はそれだけ考えて寝る。

ナイーブな泥人形達が演じて踊るネガティブパレードはもう見飽きた。

はい、アウトで結構ですから、やっちまいますね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6411m/>

はいアウト

2010年10月30日23時59分発行